

第1章 勉強ってなんだろう？

勉強なんて面白くない、という人がたくさんいる。でも、僕はそれが信じられない。だって僕は勉強が好きで、面白いと思っているし、一緒に授業をしている生徒達だって、最初は嫌いでも、段々勉強が好きになっていく姿を何度も見ているから。だから勉強嫌いと言う人は多分、いやきつと「勉強」の意味を勘違いしているんだと思う。逆にそれさえ分かれば誰でも勉強は好きになるし、勉強し始めていくだろう。

この章では「勉強って何だ？」っていう基本的な疑問に答えることにしよう。

1. 勉強とは、生きる方法を知ることだ

勉強するとはどういうことなのか。勉強の基本は、分からないことを調べて、考えて、納得して、理解するということだ。では「勉強」と言う言葉の意味を、辞書を引いて調べて見よう。すると「勉強」は「勉(つとめ)を強(つよ)める」という意味だと書いてある。どういうことだ？もう少し考えてみよう。

この「勉」という言葉は、努力したり、頑張るという意味を持っている。じゃあ何を頑張

るのか。違う漢字で「つとめ」を引いてみると、こんな字が出て来る。

「おつとめくろうさん」とか「〇〇につとめています」なんて言う場合のつとめは「勤め」と書いて、「仕事」の意味を持っている。また「務める」という場合には、職業ではなく、任務や役割を行うことを意味している。他にも「問題解決につとめます」という場合の「努める」という字があつて、これは「頑張る」「我慢する」という意味で使う。なんか入試問題でよく出る、同音異義語の勉強みたいだけど、結局「勉」は、勤める（働く）、務める（任務を全うする）や努める（努力する）という意味を持っている。

仕事や役割を一生懸命頑張る。僕はこの「勉」は「生きること」だと思ふ。仕事は生きるためにする。人々は職業としての仕事をしながらお給料をもらつて、生活に必要なものを買つて生きている。でもそれだけじゃない。恋をしたり、家庭を作つて子どもを育てたり、一緒に社会をつくつたり、職業以外の任務や責任を務めることも生きていく上では必要な要素だ。そしてこれらは簡単に出来ることではない。勤めも務めも頑張らなければできないから、みんな頑張つて生きている。だから「勉」は「生きること」なんだ。

でも最近はこの勉めを放棄する人が増えてきている。都市化が進んで近所づきあいをしなくなつたり、ゴミ当番を拒否したり、仕事以外の責任を避ける傾向がある。また、親として

の責任を放棄して子どもを虐待したり、育児を放棄して死なせてしまう人もいる。務めの放棄だ。

また、仕事をしないで親の援助を受けて生活する「ニート」という人々もいる。もちろん社会的な原因（不況による職不足で仕事そのものがない）もあるけれど、どんな仕事でも生きるためにする、というのではなく、やりがいのある仕事があればやる、それが見つからないうちは親の援助を受けるといふ、働かなくても生きていけてしまう不自然な状況が起きている。勤めの放棄だ。

そして努めの放棄。今、無気力な人間が増えている。中学生や高校生に将来の夢を尋ねても「別に（無い）。」という答えが返ってくる（泣）将来希望する職業のアンケートでは、収入が安定する公務員が大人気だ。でも、いい加減に仕事を選んでしまった若い人たちはすぐに仕事を辞めてしまう。最近では7・5・3の法則と言って、中学卒業で7割、高校卒業で5割、大学卒業でも3割の人がせっかく就職しても3年以内に離職してしまうという。

別にやりたいことはないからと、特に熱意も希望もなく働いては見たけど、現実はやる気がなくても働けるほど甘くはなかったというわけだ。やりたくもない勉強をして、やりたくもない仕事をして、生きていく意味もわからないままに、命を消費して死んでいく。それで

本当にいいのか？良くないから辞めてしまおう。

人生は、頑張ることや夢がなければ絶対に面白くない。僕はそう信じている。内容はなんでもいい。誰かの命を救いたとしても、誰かの心に響く歌を歌いたとしても、誰かの生活が豊かになるようなものを作りたい。そういう目標があるから人は頑張っている。「別に」と世の中を知った顔して汗も流さない生き方に充実感や満足感はないだろう。

だから頑張りもしないで、どうせ生きていてもつまらないから、なんて言うのはおかしい話なんだ。でも、どうやって頑張ったらいいの？何を目標に頑張ったらいいの？どうやって生きる目標は見つかるの？そう思う。それが分からないからやる気をなくしてしまっている人がたくさんいる。そのやり方を見つけた人はどんどん頑張り始めているのに、やり方がわからない人は、せっかくのパワーを使えないままくすぶっている。

どうやったら目標が見つかるのか、どうやったら充実した生き方ができるのか。それを知るのがまさに勉強することなんだ。つまり、「勉」とは生きること。そして、「勉強する」とは**生きる方法を知ること**だと、僕は定義する。

生きる意味や生きる術を知っている人は、それに向かって頑張っていける。文字通り「生きて」いける。テレビで見るスポーツ選手や、ノーベル賞を受賞した学者、自分の歌で誰か

を感動させているミュージシャン達は生き生きしているだろう？彼らは自分が生きる方法を知っている。ちゃんとその方法を勉強して生きていく道具にしている。

逆に、生きていく方法を知らない人は、体は生きていても生きていけない、死んでいる。仕事をして生活は安定しているように見える人が、突然死んでしまうことがある。ストレスが溜まっていったんだろう。悩みを誰にも相談できなかつたり、家でも会社でも居場所を感じられず自ら命を絶ってしまう人もたくさんいる。

日本では1998年から10年連続で年間自殺者数は3万人を越えていて、大きな問題になっている。3万人という人の数、命の数は阪神淡路大震災（1995年）の被害者数6437人の約5倍、アメリカ同時多発テロ（2001年）の被害者数2937人のおよそ10倍にも当たる。きつとそれぞれに色々な事情、複雑な事情があつたんだろう。でも、生きる方法を知ってほしかった。もつと生きてほしかった。学校の勉強だけではない、生きていく方法を知っていれば、ピンチになったときその状況を打開する方法を知っていれば、失われた命は救えたはずだ。

また、学校の勉強はしたけど、何もやりたい仕事がないから家にいるという人たちがいる。何のために勉強するのかを考えないで来たから、学んだことの使い方が分からない。本当は

働かないと生きてはいけなただけど、お金を持っている親が「生かしてくれる」から生きていける。でも、これでは生きていくことにはならない。生物はみな老いていき、やがて死ぬ。事故や病気がない限り、親から順番に死んでいく。親がいなくなつたとき子どもはどうやって生きていくのだろう。その不安を本人たちも感じているから事件が起こる。40歳50歳の無職の「子ども」が80歳近くの親を殺害してしまうというニュースを最近よく耳にする。なぜ?と思うがその理由を聞くともつと驚かされる。

「そろそろちゃんと働きなさいと注意されたから」。

きつと親もこのままではいけないと思つて注意をしたんだろう。子どもも心の中ではそれがちやんと分かつていて、大きな不安と恐怖を感じていたから、それを指摘されて逆上してしまつたのだろう。そういった人たちにも勉強が、生きるための方法を知ることが必要だつたんだ。それは歳を取れば自然にわかるものではない。学校へ行けば教えてくれるものでもない。自らの意思で勉強しようと思つて初めて勉強はできるんだ。もちろん早いほうがいい。

僕の生徒には小学生のうちから高い志を持ち、将来多くの命を救うために医者になることを目指している子がいる。将来世界の多くの人と友達になろうと国連で働くことを目指している高校生がいる。彼らは既に「勉強」を始めている。将来働きながら生きていく目標を見据

えて今勉強している。

40歳でも50歳でも遅くはない。歳を取るほど経験は増える。若い子よりもたくさん生きている。その経験を使って勉強したほうが、生きる方法を知るには有利に決まっている。覚えておいてほしい。勉強するということは「生きる方法を知る」正にそのことなんだ。

勉強するということとは「生きる方法を知ること」だ。

2. 生きていく全てが勉強

勉強とは「生きる方法を知る」ことだと定義した。生きるためには何が必要か？どうすれば生きていけるか？仕事が必要。じゃあ何の仕事をするのか？そもそもどれくらいの種類の仕事があるのか？やりたい仕事が見つかったら、その仕事に就くためにはどうしたらいいのか？仕事だけじゃない。好きな人と付き合うにはどうしたらいいか？結婚して家族を築いて

いくには何が必要か？人として尊敬される人間になるにはどうしたらいいか？満足いく一生を終えるためには仕事のほかに何があったらいいのか？

僕はそれを考えることすべてが勉強になると考えている。この質問には答えは用意されていない。たまたまある方法で成功した人の話は聞くことができるけど、それが自分にも当てはまるとは限らない。(そんな究極の方法があれば僕も教えてほしい)だから、考えるんだ。どうすればいいのかな？って。そして実際に行動して経験してみるんだ。「失敗は成功の元」っていうだろ。どんどん失敗して、成功していく方法を自分で試しながら確かめていくんだ。そのためには学校の勉強だけでなく、友達と遊ぶことも、漫画を読むことも、おいしいご飯を食べることも、みんな大事な勉強だ。生きていること、そのものが勉強と言ってもいい。でも、一つだけ注意がある。そういう一つ一つの行為や体験を、無意識にやっけていても何の勉強にもならない。なぜだろう、なんでだろうと疑問を持ち、何かを学んでいく意識が必要なんだ。

勉強をやらされている人は、「嫌だな」「早く終わらないかな」と思っているから、学ぼうという意識なんて全く無い。無理やり何かを覚えようとしても、その意味が分かっていないからいつの間にか頭の中から記憶が失われてしまう。いざという時には忘れていて使えない

んだから、それはもう勉強とは言えない。

また、同じ行為をしていても、そこから多くを学ぶ人と何も学ばない人がいる。

「それは頭がいいからだよ。」

よくみんなそう言う。勉強ができる人は頭が良い人。自分はどうせ頭が悪いから、やっても無駄。でもそんなことは決してない。みんな最初は何も知らない状態から生まれてくる。環境による違いはあるけれど、意識して勉強した分だけが身につく。だから子どものうちは無理やりにも意識させて教えなければいけない。それが勉強を強いる、勉強というものなんだ。

中学受験をする子達は「頭がいい」のではなく、3年分「早く」勉強しているだけなんだ。公立中学に行った子も中三の時には高校受験をする。中学受験と高校受験のレベルは大して変わらない。(だから中学入試を行っている私立は高校の募集も行っているんだ)それなのに「自分は入試に合格したから頭がいい」と勘違いしている子どもがいる。イタイ(泣)逆に友達が遊んでいるときも勉強を続け、メチャクチャ頑張って合格したのに「アイツは頭がいいから当たり前だよ」と言われてしまう子もいる。それはかわいそうだ。

僕は家庭教師もしているから、毎年多くの中学受験生と、本当に一生懸命勉強している。出来なくて、悔しくて泣いたり、分からないことが「わかった！」と喜びながら日々勉強し

て、やつと彼らは合格していく。それを「頭がいい」なんて言葉で片付けてほしくない。彼らはみんなが遊びまくっている夏休みも、クリスマスもお正月も返上して頑張っている。3年後に高校受験の子達がすることを、3年前にやっていただけだ。それでも「ガリ勉してる」とか「そんなに無理矢理勉強させなくても」とか「あその家はお金があるからね」と陰口を叩かれたりする。3年後そんなことを言っていた人たちは高校受験を迎え、「今やらなきゃいつやるの!」「夏休みは天王山だ!」「受験生の春は正月じゃなくて合格後だ!」なんて言いながら受験勉強をする(笑)

僕は公立中学出身で、自分の子も公立に入学させるつもりだけど、それでも頑張ってる子供達を何も知らないで批判することはしない。勉強というものに「時期」は関係なく、意識して始めたときから勉強は始まる。小学生の頃から勉強する子もいる、中学生でする子もいる。ずっと意識せずに二十歳になって気付いた浪人生もいる。40まで働いてきて、改めて勉強の大切さを意識して勉強を始めた生徒もいた。高校受験でも大学受験でも、就職試験も資格試験も、みんな同じ、ちゃんと意識して勉強を頑張った人が受験にも合格するし、社会に出て生きていけるんだ。そうあってほしいし、そうでなければならぬ。テクニクや暗記だけで乗り越えていけるほど現実には、生きるってことは、簡単じゃないんだ。

人は誰しも生きている。オギャーと生まれてきて、家庭で育って、学校に行って。生きていく中で体験していることはそんなに変わらぬ。勉強する者としていない者、勉強ができる者としてできない者との間には、頭の良し悪しなんかではなく、「意識」の差があるだけだ。生きていく中でする様々な体験を、意識して学ぶか、意識しないで時間を経過するか。そこに大きな違いがあると思うんだ。

だから君は今からでもいい、一つ一つの場面で「なぜ？」を自分に問いかけるんだ。そして考えよう。物事のなぜを。どうしてなのか、当たり前だと知ったかぶりをしないでちゃんと分かるまで考えよう。そしてそうやって考えた経験を脳裏に刻もう。それさえ出来れば、何をやっていても勉強になる。

テレビゲームをしても勉強になる。

- ・なんでこんな面白いゲームをつくれるんだろう。
- ・このゲームの面白いところはどこだろう。
- ・面白いゲームとつまらないゲームの違いはなんだろう。

・微分や積分、数列やベクトルは一体どんな意味があるんだろう。

こんな風に、遊びをしていても、スポーツをしていても、恋をしている時だって、そしてもちろん机に向かって勉強しているときだって、「なぜ」を考えながら頭を使えば、誰だって勉強はできる。頭というものは、元々いいんじゃないかと、頭を普段使ってるから頭が良くなるってことなんだ。使わない道具はサビて行く。使う道具には磨きがかかる。当たり前だろ？はじめから頭がいい人なんていない。経験したことを、ちゃんと意識して勉強した人が頭を良くしていくだけだ。勉強とはそういうものだ。

そしてそうやって勉強したことは、いつか君が生きていく上で絶対に役に立つ。意識して学んだことは、洗練されて「生きていく手段」となっていく。それは、持っているだけで億万長者になれるというものじゃないけれど、君が何かやってみようと思うときに必ず必要な道具になって、君を助けてくれるはずだ。

君はテレビゲームは好きか？僕は好きだったよ。小学校の頃はゲーム機を買ってもらえなかったから、友達が持っているのが羨ましかった。だから友達の家でやりまくってた（笑）。中学に入ってやっとお小遣いを貯めて買ったファミコンで何十時間もゲームにはまってた。

高校の頃は友達が使ってて壊れたスーパーファミコンをもらって、修理して遊んでいた。ドラクエもFFも、マリオもファミスタも。最近になってポケモンやパワプロにはついていけないようになったが、それでも生徒と話をするし、ウイニングイレブンは時々やったりする。(ゲームやらない人にはまったく意味不明な話だね笑)

もちろんゲームをしていた頃は、ただ単純に「好き」というだけでやってたから、そんなに難しく「なんで？」とか考えてはこなかった。だからそれを何かに使うということも、もちろんなかった。でも先生になって生徒たちに授業をしていく中で、「もつとわかりやすく」のためには、生徒たちが体験したことを引き出すことが必要だと思った。体験したことを思い出して「ああ、あの体験で実はそういうことだったんだ。」と思えばちゃんと理解できる。例えば大人には、

「最終目標が売り上げ目標額の達成だとします。でも今は社員の営業スキル、工場の稼働体制にも不安があって、メインバンクである〇〇銀行も融資を渋り始めています。そんなときは顧客サービスの向上を図ったり、社員教育の徹底をしていくなど、持ってる物を使って、できることから地道に努力していく戦略を立てますよね。それと同じです。」

と説明するところを、生徒たちには、

「例えばこれがラスボスだとするとき、今は経験値がこれくらいしかないし、武器も攻撃力も、魔法だってショボいんだよ。だからコツコツ雑魚キャラ倒して経験値貯めなきゃいけないだよ。それと同じだ。」

といったRPG風の（笑）説明をしたりする。生徒たちは生きている時間も少ないし、働いたこともないから、当然、家庭か学校での体験に限られてしまう。でも、今は疑似体験をすることができる場所がたくさんあるよね。ゲームをして異世界の勇者になったり、映画を見て海賊になったり、ドラマを見て憧れの職業で働いてみたり、国語や歴史の勉強で戦争中の暮らしを体感したり。そんな経験を引き出しながら説明した方が授業は面白くなるんだ。その方が生徒たちには分かりやすくなるから。

だから、それに気付いたその時から、僕はゲームを「勉強」し始めたんだ。ただゲームをプレイするんじゃないって、この言葉はこういう意味で使われてるんだとか、なるほど、この呪文でこういう意味だったんだな、とか考えながらゲームを楽しむようになった。人気のゲームをやってみても「ああこれは確かに面白いな。みんなハマるはずだ」と思ったり、「育成ゲームが流行ってるけど、これはそんなに面白くないな。でもなんで人気があるんだろ？もしかしたら実際にペットとか育てる体験ができなくなっているんじゃないかな。」とか考え

るようになった。そうやってハマっている自分を客観的に見て分析し、そこから何かを知ろうとしている。こうして僕は、勉強したゲームの話を、自分の口でしゃべって授業をすることができるようになる。ゲームといえど、僕の仕事である授業には必要な勉強になっているんだ。だから堂々とゲームをする。(羨ましいでしょ笑)

最近のゲームはどんどん進化している。例えば生徒と話をしていても、火のモンスターを倒すには水の魔法を使うとか、この防具は土属性を持っているから大地の魔法には強いとか、小学生でもこれくらいは普通に語れる。遊びとは言え、かなり知識のレベルは高い。だって、ゲームの攻略本が出てくるくらいだもん。参考書買って受験勉強してるとやっつてることには大して変わらない。そのゲームをやった人には「普通に」分かる話が、やったことのない人には全然通じない。学校の勉強をちゃんとやった人には「普通に」分かる常識が、勉強をあまりしてこなかった人には何のことだかさっぱり分からない。ゲームをしている人はゲームだけプレイしていても生きてはいけないうし、受験勉強している人もそれだけやっついても生きていくてはいけない。色々なことをやっつて知識と経験を吸収していきながらみんな生きていくんだ。

ゲーム業界は市場規模が3兆6220億円(2007年度)にも上る、立派な産業だ。そ

れは「生きる手段」にもなりうる。遊びだから必要ない、なんて簡単には言えないものになりつつあるんだ。今までは「ゲームなんかしてないで」と言っていたお父さんお母さんは、これからはゲームを勉強しないといけなくなるかもね（笑）。

もちろんただプレイしているだけじゃダメだよ。それを自分でも「つくれる」ように、「つかえる」ように学んでいかないといけないからね！

このように考えると、勉強とは「生きる方法を知ること」で、それは普段の生活の中で行う一つ一つの事を「なぜだろう」「どうしてだろう」と意識して学んでいくことで出来るものだということがわかったよね。学校へ行つて先生から習うことも、友達と遊んだり話したりすることも、ちよつと悪いことをして怒られることも、全て大事な勉強の種だ。その種を種のままにしておくか、意識して勉強の花を咲かせるかは君次第だ。

**勉強は日々の体験を「なぜだろう」「どうしてだろう」と考
えることから始まる。**

3. 勉強のための勉強

僕は勉強とは「生きる方法を知ること」だと言った。でも、多くの人はそう思っていない。当然のように文部科学省が指定する教科を、学校の教室で学ぶことだと思っている。

君は「勉強してる？」と聞かれたら何をイメージするだろうか？やっぱり学校の教科や教室を思い浮かべるんじゃないだろうか。そして頭を掻きながら「全然やってません」と言うんじゃないかな（笑）。学校で学んでいる教科をやれば勉強したことになる（それでも出来ないければ塾にいつて復習する）と考えている人がメチャクチャ多いんだ。みんな学校基準、さらには受験基準なんだよね。

だから学校の教科でも、受験に出る教科のほうが受験に出ない教科よりも大事だとされている。音楽が出来る子よりも、数学が出来る子の方が「頭がいい」と言われ、絵が上手な子よりも、英語の点数が高い子の方が「賢い」と言われる。

つまりみんなが考える勉強とは、練習問題を解いたり、テストの点数を上げるテクニクを磨くことなんだ。何度も言うけど、みんなが学校基準、みんなが受験基準。

例えば君がゲームをしている。お母さんに怒られる。

「遊んでばかりいないで勉強しなさい！」

例えば君が野球をしている。お母さんに注意される。

「もう、野球ばかりしてないで勉強も少しはしなさいよ。」

例えば君が英語を勉強している。お母さんにほめられる。

「あら、偉いわね。しっかりと勉強してるわね。」

学校の教科にないものは「勉強」には入らない。学校の教科にあるものは「勉強」になる。

その中でも特に国語や英語など、入試に出る科目は「大事な勉強」となっている。野球をやることは体育という学校の科目にもあるから、まだ遊ぶよりはまし。でも受験に出るわけではないから、英語という科目にはかなわない。勉強は受験のためにするもの、それが今のみんなのルールだ。

確かに学校で学ぶ内容は国の機関である文部科学省が決定しているから信用度は高い。政府のお墨付きなんでも間違っているはずはない。僕だっつてずっと学校の教科を勉強してきたし、大勢の大人たちは学校で勉強してきた。でも本当にそれでいいのだろうか？

今の日本では入試という「試験」はものすごく重要で、入試の結果が人の生き方や人生そ



のものに大きく影響を与える。やりたい仕事をするためには、採用試験に合格しなければならない。その試験に合格するためにはいい大学を卒業していないといけない。その大学に入るには入学試験に合格しなければならない。だから入試に出る科目は大事だ。そういう考え方に当然なってしまう。

でもこの考え方だと、学校は入試に合格する勉強をしに行くところだ。(オイオイ泣)だから受験に必要ない科目はやる必要がない。(えー！大泣)受験に関係ないから友達も作らないほうがいい。(え、えー！！大泣)受験に関係ないからテレビを見てはいけない、漫画を読んではいけない。テレビはNHKだけ、ゲームは脳トレだけ。君は受験に合格し、いい会社で働くために生まれてきたんだ。それ以外のことは一切してはいけない。(・・・)学校はそう言っている。(笑)

もちろんそれは冗談で、ちょっと大げさに言っているんだけど、案外冗談ではすまさらないような事件が起きた。本当にそんな考えをしてしまった学校が、実はたくさんあったんだ。2006年、多くの高校で「単位不足のため卒業できないかもしれない生徒が大勢いる」というニュースが話題になった。驚いたのはその高校というのが進学校ばかりだったこと。「勉強なんかやってらんねえぜ」という生徒たちが、授業をサボりまくったために卒業が危

ないという話なら分かる。(僕は昔、高校教師をしていて、パワー溢れるやんちゃな生徒たちを何とか卒業させようと奮闘していたから)でもそうじゃない。卒業が危ないのは進学校の生徒たちだった。一体どうして?答えはさらに驚くべきものだった。

文部科学省は高校生の卒業要件に各教科の単位を決めている。つまり、これだけの科目を勉強したら卒業だよって言う決まりがあるんだ。高校を卒業するには74単位が必要となる。この単位には主要5教科(国数英理社)と呼ばれる、入試に出る科目もあれば、体育や家庭科などの技能科目もある。入試に合格するためだけを考えれば、5教科のみを勉強し、他の科目をしないほうがいい。でも学校という場所は、入試のためなんかにあるわけではない。だから他の科目も勉強しなければならない。それなのに、それなのにだよ、あろうことか学校側が単位を増したり、嘘をついたりして、入試科目に偏った授業をしていたんだ。しかも、1校ではなく複数の高校でこの問題が明らかになった。(高等学校必修科目未履修問題)なんとその数は600校以上。全国の公立高校の約8パーセント、私立高校の約20パーセントで履修科目の不足が確認された。合計8万人以上の生徒が、実は単位が不足して入試どころか卒業が出来ないという事態に直面した。中には「裏カリキュラム」というのを使ったウソの報告をしている学校もあった。

もう、大人も子どもも、みんな「勉強」の意味なんて考えてもいない。意味もわからないまま、ただ入試に合格することに狂っている。そして文字通り狂った人たちが事件を起こしてしまっている。この事件では責任を感じた学校の校長が自殺してしまう事態も起こった。自分の学校の先生がズルをしている姿を見て、校長先生が自殺してしまうという状況の中で受ける受験は、果たして本当に生徒の人生を切り開くことが出来るのだろうか。夢の第一歩となるのだろうか。僕は学校基準の勉強、受験基準の勉強は間違っていると思う。そんなものは勉強ではない。

僕は色んなところで教鞭を執ってきたけど、受験のために勉強を教えたことはない。いつだって僕が授業をするのは、生徒に「勉強の面白さ」を伝えるためだ。僕の生徒たちは勉強を好きになっていく。分からないことを無理矢理詰め込むのではなく、徹底的に分かるまで話し込んで理解させる。本当の勉強の意味を教え、勉強するとはどういうことなのかを納得した上で行う。そんな勉強をしていけば、受験を目指していなくても合格していくんだ。僕の生徒には受験が終わって「もう勉強しないで済む」なんて思う子はいない。「早く次の学校で新しいことを勉強したいなあ」なんて言って予習を始める子もいる位だ。受験に合格する、という同じ結果であっても「もうやりたくない」と思っって入学するのと「早く勉強したいな

あ」と思つて入学するのでは、その後の人生は大きく違うのではないだろうか。多くの人が勉強嫌いになる理由も、まさにこの学校基準、受験基準の勉強だと思う。

それに学校の勉強ができなくても、たくさん学んで偉業を残した人はたくさんいる。

電球を発明したトーマス・エジソンは、覚えることが嫌いな「なぜ？何？少年」で、小学校をクビになつてしまい、お母さんに勉強を教えてもらつていた。

遺伝の法則で有名なメンデルは農家の子で、修道院に入会后、独学で科学を学び、遺伝の法則を見つけた。

相対性理論を発表し、物理学の父とまで言われたアインシュタインは大学の物理の成績は「1」だった。必ずしも彼らは学校の優等生ではなかつたのだ。

だったら学校の勉強なんてしないでもいいじゃん、そんな声が聞こえてきそうだけど、それも少し違う。大人たちが口をそろえて「もつと学校でちゃんと勉強しておけばよかつた」とつていうだろう。それは学校の勉強があらゆる道の基礎にあるからだ。

つまり学校の勉強は「勉強のための勉強」だと僕は思う。学校でいくら勉強したって仕事にはできないし、それがそのまま誰かの役には立たない。でも、だからといって学校の勉強をしないと、よっぽどの専門性を身につけない限り、自ら学び、生かしていくことなんてで

きつこない。だから、親に言われたから、先生に言われたから学校の勉強を勉強だと思うのは今からやめよう。学校でなくても勉強はできる。でも学校ではあらゆる学問の基礎になることを教えてもらえる。ちゃんとその意味を知って勉強しよう。意味を知らないでする勉強なんて、何の意味もない。

学校の勉強は勉強のための勉強だ。その意味を知らずして勉強することには何の意味もない。

4. 勉強するとはどういうことか？

勉強についてこれだけ勉強したのも初めてだね(笑) ここで勉強するということについて、今まで話してきたことから僕の答えを出そう。

勉強するとは「生きる方法を知ること」である。

人間は生まれたままの状態では、絶対に他人の力が必要な弱い存在だ。だから自分の力で生きていくためには、生きていく手段を知らなければならない。それが勉強すると言うことなんだ。

生きる方法を知るためには、まずは広く世の中のことを知る必要がある。

人間は、ライオンや熊とは違って獲物を捕まえる能力はそんなにすぐくはない。人間がこの世の中で生きていこうと思ったら、人に何を提供することが喜ばれるかを考えることだ。仕事をしてお客さんを喜ばせてお金をもらい、そのお金を使って生きていく。そのためには

世界にどんな人がいるのか、どんな暮らしをしているのかを知らないといけない。自分にか興味のない人は、誰にも喜ばれないから生きていけない。

生きているどの瞬間にも、学びの種がある。

世の中を広く知るためにだったら、何でも勉強になる。

- ・ 誰かと会って遊ぶ、社会学、心理学、人間行動学、コミュニケーション理論
 - ・ 家に帰ってゲームをする、経済学、文学、生理学、ゲーム理論、メディア論
 - ・ 疲れてお風呂に入る。生物学、基礎代謝論、休息と疲労の関係、水の状態変化。
- つてな具合に（笑）

大事なのはその種を「意識」すること。同じ経験してもそこから「知ろう」と思わなければ何の勉強にもならない。無理矢理覚えてもちゃんと理解しなければすぐに忘れてしまう。だから君はこの広い世界に「なぜだろう」「なんだろう」という好奇心を持って。そしてそれをひとつずつ知っていく。それが勉強するって言うことだ。

学校へ行「じゅう」そして勉強しよう！

学校はそんな広い世界の話を、細かく教科に分けて教えてくれる。主なものを挙げると、こんな科目がある。

- ・ 国語 人の気持ちを考える勉強、物事の説明を読んで理解する訓練をする勉強。
- ・ 算数（数学） 世の中の仕組みを「数」と「図形」を通して理解する勉強。
- ・ 英語 外国の言葉を理解し、外国の文化を知るための道具を手に入れるための勉強。
- ・ 理科 世の中の仕組みを「現象」と「仕組み」を通して理解する勉強。
- ・ 社会 世の中そのものを知る勉強。今の世の中の仕組み、昔の世の中の歴史、他の地域を知る勉強。
- ・ 保健体育 体の動かし方と体力をつけるための勉強、人間という種を知るための勉強。
- ・ 図工（美術） ものを作ったり組み合わせたりする勉強、頭の中のイメージを「形」で表現する方法を知る勉強。

- ・ 道徳
- ・ 音楽

人としての生き方を知るための勉強。

頭の中のイメージを「音」で表現する方法を知る勉強、音と一体となり心を落ち着かせる方法を知るための勉強

「学校は本当に幅広く、色んな「世界」を教えてくれる。だから君が生きていく上で必要な要素は学校で勉強するのが一番効率がいい。でも多くの人はそれを意識していないから、学校を卒業した後になってそれに気付いて後悔する。」

「もつと勉強しておけばよかった。」
そう言わないために勉強とは何かを勉強しよう。それがまさにこの「生きる方法を知るための勉強」、教育論なんだ。もつともつと勉強していこう！

